

平成21年（1月～9月）における火災の概要（概数）

総務省消防庁

1 総出火件数は3万9,694件、前年同期比898件の減少

平成21年（1月～9月）における総出火件数は3万9,694件であり、前年同期と比較しますと、898件（2.2%）の減少となっています。

これは、おおよそ1日あたり145件、10分に1件の火災が発生したことになります。

2 火災による死者は123人の減少、負傷者は242人の減少

火災による死者は1,397人で、前年同期と比較しますと、123人（8.1%）の減少となっています。

また、火災による負傷者は5,800人であり、前年同期と比較しますと、242人（4.0%）の減少となっています。

3 住宅火災による死者（放火自殺者等を除く）は754人で、95人の減少

建物火災における死者995人のうち住宅（一般住宅、共同住宅及び併用住宅）火災における死者は892人であり、さらにそこから放火自殺者等を除くと754人で、前年同期と比較しますと、95人（11.2%）の減少となっています。

また、建物火災の死者に占める住宅火災の死者の割合は89.6%で、出火件数の割合57.3%と比較して非常に高いものとなっています。

4 住宅火災による死者（放火自殺者等を除く）の約6割が高齢者

住宅火災による死者（放火自殺者等を除く）754人のうち、449人（59.5%）が65歳以上の高齢者であり、前年同期と比較しますと、91人（16.9%）の減少となっています。

また、住宅火災における死者の発生した経過別死者数を、前年同期と比較しますと、逃げ遅れ447人（64人（12.5%）の減）、着衣着火40人（2人（4.8%）の減）、出火後再進入19人（1人（5.6%）の増）、その他248人（30人（10.8%）の減）となっています。

5 出火原因の第1位は「放火」、続いて「たばこ」

全火災3万9,694件を出火原因別にみますと、「放火」4,882件（12.3%）、「たばこ」3,932件（9.9%）、「こんろ」3,858件（9.7%）、「放火の疑い」3,534件（8.9%）、「たき火」2,568件（6.5%）の順となっています。

また、「放火」及び「放火の疑い」を合わせますと、8,416件（21.2%）となっています。